第２回「全国通訳案内士の研修の高度化に向けた検討会」（議事概要）

１．開催日時・場所

・日時：令和８年６月 29 日(月)　14:00～16:00

・場所：中央合同庁舎２号館　観光庁会議室１・２

２．出席者

（委員）山本委員長

伊藤委員、上杉委員、畝崎委員、齋藤委員、白石委員、虎谷委員、橋本委員、

松本委員（代理：黒崎氏）、水谷委員、米原委員、ランデル委員、渡邊委員※50 音順

(オブザーバー)　赤司委員、野口委員、前川委員

３．配付資料

・委員名簿

・配席図

・【資料１】検討会設置の背景などについて

・【資料２】全国通訳案内士のキャリアパスに関して

・【資料３】基礎研修に関して

・【資料４】基礎研修に関する情報提供に関して

・【参考資料】

４．議題

①　全国通訳案内士のキャリアパスについて

②　基礎研修に関して

５．議事概要

委員の互選により、山本委員が座長に選任された。

事務局より、議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。

主な意見は以下のとおり。

議題①（【資料 2】）について

○ 通訳案内士のキャリアパスを考える上で、観光庁が実施している若い世代への認知度向上の取組があるが、当校においてはガイドによる講演だけでなく、博物館で実際に学生たちが下調べから模擬ガイディングを行う機会を設けたところ、学生の反応が非常に良かった。今年度入学した学生からも同様の取組を希望する声があり、キャリアパスの拡大や将来の担い手育成の観点からも継続的に実施いただきたい。

○ 若年層への認知度向上施策については、昨年度に講師として参加したが、受講後資格取得に興味を示す学生が複数見られた。将来の仲間の増加につながるものであり、継続して実施してほしい。また、観光庁が予算化を含め通訳案内士支援に取り組む姿勢を示していることは大変心強い。本題のキャリアパスについては、旅のスタイル、ニーズ、ガイド自身のライフスタイルや働き方が変わる中、多様な働き方や道筋を知り、業界の全体像が見え

るのは助かる。さらに、出産・育児等による一時離職後の復帰モデルなど、多様なライフステージに対応したキャリアモデルも示されると有益である。

○ キャリアパスについては、資格を取った後にどうしたらいいか、どうやったらキャリアを積めるのか、どんな研修があるのかを見えるようにして、まず入り口のところをしっかりと示す。どのような仕事があり、どのようなところから仕事のオファーがあるのか、どんな能力が必要かもあっていいが、一般で言われるキャリアパスの提示は難しい。キャリアパス自体をつくり込むことにエネルギーを使うよりも、入り口をしっかりさせること。資料で示されたガイドとして求められる能力が変わってくる要素については、現場の実態からするとぴんとこない部分がある。また、キャリアパスの要素については、個人向け地域ガイド、個人周遊ガイドの受託先は個人、ＯＴＡが多いとあるが、会員アンケートによれば旅行業者、ランドオペレーター、派遣会社が 97%であった。また、業界として一つの「キャリアパス」を示すのが難しい中で、ガイド団体が先輩から後輩へ、あるいはお互いに情報交換することで新人を導く努力/役割をしてきた。ガイド団体に所属することも奨励して欲しい。

○ 基礎研修を任意のものとして位置付けるのであれば、資格取得前の段階で業界の全体像やキャリアパスを中心とした研修をすると、通訳案内士を目指す人材の増加にもつながる可能性がある。FIT 増加に伴い、近所での半日・１日単位のガイドも増加すると思うので、キャリアパスの中で、御自分が続けられるようなことを学んで、目指していっていただくということも必要。尚、通訳案内士のキャリア素案の個人周遊ガイド部分に記載のＯＴＡは旅行サービス手配業なのではないのか。

○ キャリアパスについては、考え方として非常に重要なことだと思うが、まずやるべきは、入口のところである。

○ キャリアパス素案の資料上、キャリアアップという観点が少ない。ガイドの種類だけではなく、例えば、ガイドの育成講師や、旅行会社のカスタマーサポート、旅行会社の経営等、多種多様なキャリアが広がっていくところも示せれば、ガイドを目指したいと思う人が増えてくるのではないか。

○ キャリアパスの捉え方にもよるが、ガイドになった場合にどのような仕事の方向性があるのかという紹介であれば、当団体の基礎研修でも既に行っており、必要との認識。尚、資料上個人向けガイド、地域別・スルーとともにＯＴＡ手配が多くなっているとあるが、実際には旅行会社手配が多い。

○ キャリアパスについては、当団体では基礎研修の中で、収入水準や指名ガイドになるまでの過程を含めたキャリアパスを示しており、受講者の経歴に応じた適正のありそうなガイドの方向性についても助言している。団体への所属やガイド同士のネットワーク形成も重要であり、その意義について理解を深めてほしい。

○ キャリアパスについては、報酬、その方の資質やライフスタイルに合わせてどのようなことができるのかに絞ったロードマップ研修をやっており、また、新人研修の中でも 4～50 分を取って説明をしているところ。その必要性の声が認められたのを感じる。

○ キャリアパスに関しては、モデルケースやキャリアアップしていく道筋もここに含む。あるいは、もっと多様な部分というのを、どう示していくかというところの課題があった。

第２回「全国通訳案内士の研修の高度化に向けた検討会」（議事概要）

議題②（【資料３・４】）について

○ 近年はインバウンド旅行者の関心の深化が如実である。お客様の要望を受け、ホテルのコンシェルジュが“Off the beaten path”というツアーを造成しているとも聞く。ガイド自身が情報収集や旅行者体験に基づき旅を見る観点や、その成果を研修に生かす機会が必要ではないか。

○ 基礎研修ではキャリアパスを学ぶことも重要である。また、各研修機関の内容を一覧で確認できる仕組みは有用であるが、コマ数ではなく、研修時間等も含めて比較できる形で情報提供した方が分かりやすいのではないか。

○ 基礎研修の方向性を議論するに当たり、検討結果がどの程度の拘束力を持つのかと実施時期に関心がある。基礎研修は義務化でないにしても、最低限度のプロとしてスタートラインに立つための基礎の実務、業務知識を押さえていただく場であり、受講奨励と支援(受講者、実施団体へ)をいただきたい。また、ガイドの団体への加入・参加ということも、呼びかけていただきたい。基礎研修に関しての資料に関しては、法定研修を受けて、次のステップとして各種研修とあるが、法定研修と各種研修は横並びである。基礎研修に盛り込む内容については、資料３の P3 で提示された内容は、アンケートでは「さらに追加した方が良いと思われる研修内容」という設問の回答なので、それが最優先という内容ではない。必須で盛り込むべき内容は、現在、各団体が、やるべきことを現実的な可能性の中で実施している。実施項目を強制され、いろいろ追加するとなると、受講者の負担になっていくが、支援はいただけるのか。資料４について基礎研修の情報提供をしていただけるのはありがたいが、記載項目の選択は慎重にしないと、網羅している/多く取り扱っているところが良いと誤解される可能性がある。資料４の情報提供の対象は登録研修機関のみなのか。各団体がそれぞれの考え、思いを自分たちの言葉で伝えられる欄というのを大きめに取っていただけると、大変ありがたい。

○ 今回の基礎研修を、登録直後の通訳案内士に実施する方針は大変よい。国や自治体が統一的に実施し、各団体が自主的に行う既存の研修は今後通訳案内士として活動する者に受講してもらいたい。国や行政が通訳案内士の能力向上を支援する姿勢を示すことはありがたく、各団体が実施する研修についても援助を検討してほしい。

○ 法令や同行実地研修等を必要最低限行うのも一案。旅行会社や旅行サービス手配業との関係など業界構造についても学べる内容が望ましい。また、研修情報や研修履歴、旅行会社等とのマッチングの仕組みについても検討が必要ではないか。

○ 通訳案内士団体を尊重していただくのはありがたいが、国の施策としては、誰が観光ガイドしてもいいことになっており、無資格ガイドに対する教育も必要。通訳案内士団体の紹介や基礎研修等の受講を勧めてほしい。

○ 研修のフィールドとして、もっと地方は協力ができる。地方を活用していただきながら、全体としてインバウンドの多様化に応えていけるような研修も考えていただけるとうれしい。

第２回「全国通訳案内士の研修の高度化に向けた検討会」（議事概要）

○ ガイド試験合格者の基礎研修受講率や、無資格の人の受講率がわかれば示してほしい。基礎研修については、各団体において既に十分開発されているが、今後は専門ガイドや高付加価値ガイド向けの研修の在り方に向け調査してほしい。

○ 基礎研修に関して、義務化や自治体、観光庁などが統一した研修を行うことは不要。各団体が特徴を生かして行えばよく、観光庁にはそれを広く情報発信してほしい。各団体の研修内容や特徴をまとめて受験者や合格者に周知いただけるのは非常にありがたく、そういった役割にもっと力を入れてほしい。

○ 基礎研修は義務化ではなく強く推奨する形が望ましい。各団体の研修の特徴、売り、強みを細かく書いた、一枚物でいいので、合格者に伝えていただきたい。また、団体に所属するメリットを多くの人に理解していただきたい。世界組織の会長も、ガイドネットワークを広げ、お互いに高め合っていくというような姿勢を持つことは、特に日本のガイドには重要と語っていた。

○ 地方には基礎研修を受講したくても費用や距離の問題で参加できない人が多く存在している。基礎研修を制度的に補助するという考え方を整理するべき。実地研修では旅程管理の意味でバスが必須であり、研修費用は、ほぼ講師謝金とバス代。ここに対する補助制度をきちんとつくるべき。また、ガイドは同期や仲間とのつながり、チームワークを通じて成長する側面が大きいが、オンライン研修だけでは仲間づくりはできない。

○ 基礎研修への参加は極めて重要であり、将来的には義務化も含めた議論を行ってもよいのではないか。そう思うほどに、基礎研修への参加を強くお勧めいただきたい。また、基礎研修に本当は含めたいものを、経済的、物理的理由等で別の任意研修で提供している。そのため、現在提示されている情報提供様式では各団体の特色を十分表現することが難しい。

○ 地域によっては全国通訳案内士より旅程管理主任者資格を持つ外国人材が多くガイドしている実態がある。日本人や英語に限らない。ガイドには知識だけでなく、旅行者を楽しませる表現力が求められる。難しい話ではない。通訳案内士の活躍のために基礎研修をやるのは悪いことではないが、地域によっては活躍の場はないという認識。

○ 基礎研修をどう位置づけるのかに関して、観光庁には引き続きしっかりと示していただき、政策的な方向性も、ある程度、お示しいただきたい。基礎研修の情報提供は、各団体の努力と蓄積を見える化する非常によい資料。引き続きブラッシュアップの議論ができたらよい。

以上